

本庁係長



「使命感」を胸に

平成28年入庁。
国税庁総務課、国税庁徴収課、
香椎税務署個人課税部門国税調査官、
財務省主計局主計企画官付調整一係長
を経て、令和3年から現職。

国税庁 課税部 課税総括課
企画係 係長

大島 健輔

私の任務

正直者が馬鹿を見ない世の中作りに貢献したい、そんな思いを胸に入庁してから早くも6年が経とうとしています。私が所属する課税総括課では、課税部をリードする部署として、課税部全体の基本方針の策定や国際化、新たな経済活動といった困難な調査事案への対応に関する企画・立案などを担当しています。企画係長としての私の任務は、国会対応や税制改正といった課税部全体にまたがる案件を取りまとめることです。この任務を達成するため、課税部の各課室と密にコミュニケーションを取り、全体の段取りを整えながら、課税部全体の取組がスムーズに進むように日々奮闘しています。

多様な経験

これまでに、国税庁本庁や財務省、税務署において、様々な経験を積んできました。特に、直近2年間は財務省主計局に出向し、税金の使い道を考える仕事(予算編成)に従事しました。一見すると国税の仕事には直接関係ないように見えますが、予算編成というスケールの大きな仕事に

携わることを通じて、より物事を俯瞰的に捉えられるようになったことは、現在の業務に大いに役立っています。こうした多様な経験を通じて、自らの視野や思考の幅が広がることに喜びを感じています。

国税庁で働く魅力

「税」という1つの軸を持ちつつ、国内外で様々な業務にチャレンジできることは国税庁総合職ならではの魅力です。また、仕事内容はもちろん重要ですが、誰と一緒に働くか?というのも大切なポイントです。私自身、国税庁を選んだ決め手は「この人たちと一緒に働きたい」と思えたことです。国税庁の職員は「税のプロフェッショナルとしてこの国を支える」という使命感を胸に、日々職務に邁進しています。みなさんも是非一緒に働いてみませんか?



1日の業務スケジュール

出勤 (コロナ対策のため時差出勤) メール対応	他課との 連絡調整	資料作成	昼食	メール対応	上司と相談	他課との 打合せ	幹部への 説明	資料作成	退庁
10:00	10:30	11:00	12:15	13:00	13:15	14:00	15:30	17:00	19:00

課長補佐



100年に一度の
大変革の中で

平成25年入庁。
国税庁総務課、
留学(ベトナム国家大学ホーチミン市校、
ダブリンシティ大学大学院)、
財務省主税局税制一課通則法規一係長
などを経て、令和3年から現職。

国税庁 調査査察部
調査課 課長補佐

宮本 温大

私の仕事

国税庁調査課は、日本を代表するような大企業の調査を担当する国税局調査部の司令塔として、それらの事務を総括しています。その中で私は、国際課税に関する調査事務の監理と、それに関連する国際会議への対応を担当していますが、この分野は今100年に一度の大変革の中にあると言われていてます。

100年に一度の 国際課税ルールの変革の中で

コロナの影響もあり経済のデジタル化が急速に進み、GAFAに代表される巨大デジタル企業が最高益を計上するなどしていますが、税の界限ではリアルな世界には拠点を持たずに世界中でビジネスをするこれらの企業への課税が大きな問題となっています。1920年代製の国際課税ルールは、国内の物理的拠点の存在を基礎としており、もはや彼らへの対応は難しく、現在140か国で新たな国際課税のルール(Two-Pillar Solution)が議論されています。この新たなルールは、消費者の存在をネクサスとして、市場国に課税権を配分するというこれまでの税の世界にはない全く新しい考え方を採用しており、それが企業・税務当局の双方にとって本当に執行可能なのかの見極めが極めて重要であり、執行の現場を持っている国税庁の見解は必要不可欠となっています。

仕事の魅力

国際的な議論に参画すると共に、私のもう一つの大切な仕事は、将来の国税庁や調査部におけるデジタル課税の執行体制を考えることです。全く新しいルール作りと同等あるいはそれ以上に、現実にワークさせていくことは難しく、両輪で走り続けるチャレンジングな業務に向き合っています。配分額を合意するための多国間のパネルプロセスにどう対応するのか、どのような税務調査を行えば日本への配分額が正しいか確認できるのか課題は山積みですが、それこそが政策官庁ではなく、巨大な執行部隊を持った官庁である国税庁の仕事の一番の魅力ではないかと思っています。

